

日本疫学会誌『福島特集号』&UNSCEAR2020/21 レポート検証シンポジウム
被曝による甲状腺がん多発を否定する2つの報告書

その検証と健康被害の実情を考える

オンライン公開

- ・日時: 2023年3月3日(金) 17:00~20:15 (開場 16時30分) **参加費無料**
- ・場所: 福島大学 M 講義棟 M1 教室 & オンライン ([会場アクセス/キャンパス地図](#))
- ・主催: 3・3シンポジウム実行委員会 共催: 福島大学放射線副読本研究会
([参加申し込みはこちらから: https://onl.bz/ZKQsHSW](https://onl.bz/ZKQsHSW))

福島県立医科大学は、同医大の研究者たちが中心になって作成した[日本疫学会誌「福島特集号—東日本大震災後の10年」](#)を公表しました。その中で、福島県民健康調査の小児甲状腺がんの増加は、放射線被ばくが原因ではない、高感度超音波スクリーニングによるものであると結論づけています。同特集の主張をもとに、福島県立医大は2023年3月4日に「[県民健康調査](#)」国際会議を開きます。「科学的エビデンスから私たちの健康を考える」(セッション1)のタイトルが示すように、福島特集号の見解を「被ばく影響なし」の「科学的エビデンス」だとしています。福島特集号の見解の多くはUNSCEAR2020/21レポートに依拠しています。

県立医大国際会議前日の3月3日に、福島大学において、『福島特集号』とUNSCEAR2020/21レポートの専門家による検証を目的としたシンポジウムを開催します。同シンポジウムでは、小児甲状腺がん多発が原発事故による放射線の影響であるとして、その「科学的エビデンス」も提示されます。県民健康調査で明らかになった原発事故後の小児甲状腺がん多発の真の原因を知りたいと考える方は、ぜひ県立医大国際会議と福島大シンポジウムの議論を比較して判断されるようにお願いします。

また、福島大シンポジウムでは、受け入れ難い「科学的知見」を一方的に住民に押し付けるコミュニケーションではなく、原発事故がもたらした健康被害の実情の正確な把握にもとづく研究者と住民の双方向のコミュニケーションが「科学的知見」をいっそう正確で高度なものにするという問題意識なども議論します。

★会場参加とオンライン参加のどちらでも可能です。

参加申し込みは「<https://onl.bz/ZKQsHSW>」をクリックください(QRコードは右)。申し込まれた方全員に3月2日までにシンポジウムオンライン Zoom 入室の URL をお送りします。

★お問い合わせは tsuyofujioka@gmail.com (藤岡)まで



プログラム

司 会 八巻 俊憲 (原子力市民委員会、元高校理科教諭、博士(学術))
オンラインホスト 林 衛 (富山大学准教授、科学コミュニケーション)
コーディネータ 藤岡 毅 (大阪経済法科大学客員教授、科学史・科学論、博士(比較文化))

開会挨拶&趣旨説明 (藤岡 毅)

<第1部>「福島特集号」とUNSCEAR2020/21 報告を検証する

- 津田 敏秀(岡山大学大学院教授, 環境疫学・因果推論, 医学博士)
「日本疫学会 Journal of Epidemiology 福島県立医大による「福島特集」での甲状腺がん因果関係」
- 加藤 聡子(元短大教授, 物理化学, 理学博士)
「チェルノブイリ並み被ばくにより多発する福島甲状腺がん
～UNSCEAR 甲状腺線量/効果関係から被ばく線量を推定する～」
- 黒川眞一(高エネルギー加速器研究機構名誉教授, 加速器物理学, 理学博士)
「福島市紅葉山に設置されたモニタリング・ポストのデータが示すこと
～福島市の甲状腺等価線量は UNSCEAR 報告書が示す値の 10 倍程度である～」
- 本行忠志(大阪大学大学院名誉教授, 放射線生物学, 医学博士)
「UNSCEAR 報告書の問題点」～過小評価で固めた推定被ばく量とそれに依拠する人たち～

〈休息〉

第1部に関するディスカッション(質疑応答含む)

★記者会見のプレスリリース読み上げ

<第2部>原発事故による健康被害の実情を考える

- 崎山比早子(3.11 甲状腺がん子ども基金代表理事, 高木学校, 元国会事故調査委委員, 医学博士)
「県民健康調査の目的及び甲状腺がん当事者から見る甲状腺検査縮小論及び過剰診断論、スクリーニング効果」
 - 千葉親子(甲状腺がん支援グループ・あじさいの会)
「小児甲状腺がん患者支援の立場から～研究論文を書く研究者たちに望むこと」(仮)
- 第2部に関するディスカッション

閉会の挨拶